日本中国語学会々報　2017年6月

http://www.chilin.jp/

◆目次◆

ご挨拶 1
支部例会実施報告　2017.1-2017.5 2
会議報告 4
全国大会および例会開催のお知らせ 8
選挙公示 9
事務局からのお願いとお知らせ 9

ご挨拶

木津祐子（日本中国語学会会長）

新年度が始まり 2 ヶ月が過ぎました。11 月 11～12 日にかけて中央大学で開催される第 67 回全国大会に向け、また『中国語学』264 号の出版に向け、すべて着々と進行しています。関係する委員会、また開催校の皆様のご尽力に、心より感謝いたします。つい先日梅雨入りしたのが嘘のような爽やかな空を眺めながら、淡々と進む日常が、このように多くの方の努力によって支えられることを改めて感じております。

4 月のメールマガジンでお伝えしたとおり、三ヶ月前の 3 月 14 日に、我々の大事な仲間であり、この事務局で会計幹事の任にあった島津幸子さんが急逝されました。その一報が飛び込んだとき、私は香港城市大学で、学生主催ワークショップに出席している最中でした。何やら訃報らしきことが書いてあるメールの内容が全く飲み込めず、文面にある島津さんのお名前を何度も目でなぞり、ここに書かれている人は誰だろう、島津さんと同姓同名だが、こんな人は、私は知らない、どういう意味だろうと、混乱して事態をすぐに把握することができませんでした。北京に向けて飛行機に搭乗直前に倒れられたとのこと、同じ日に私は香港に向けて出発したのでしたが、直前まで、年度末の会計処理や 5 月の役員会議についてメールを交わしていたのです。

島津さんは穏やかな方で、いつもにこやかに話に耳を傾け、そして迅速かつ誠実に仕事をやり遂げてくださいました。「それは私がしておきます」と短い言葉で軽やかに、仕事をどんどんこなしてくださる彼女は、現事務局の支柱であったと言っても過言ではありません。昨年の別府の大会では、日程すべて終了し、帰って行く皆さんを見送った後、連れ立って別府の公営浴場のはしごをしました。番台で買った石鹸が無くなったと大騒ぎする私に、島津さんは冷静にこれじゃないですかと、

脱衣場の窓の桟に放置したままの小さな塊を指さして、何だか修学旅行のように二人で思わず吹き出したものです。その後、反省会と称し、大会の無事終了をお互いに労って、大学のことや研究のこと、また家族のことなど様々におしゃべりしながら、別府の海の幸に舌鼓を打ったのでした。この学会の仕事が終わってからも、ずっと友人としてつきあっていきたい、そう思わせる方でした。

本事務局の会計業務はすべて島津さんが一手に引き受けてくださっていました。訃報に接し、残された事務局一同、途方に暮れたのも事実です。しかしそれも束の間、紺野前幹事の的確なアドバイス、立命館大学で島津さんの同僚であった三須祐介会員の手厚いサポート、そして何よりも島津さんご遺族の献身的なご協力により、4 月の中旬までには島津さんのお手元に保管されていた学会関連のファイル類と通帳・印鑑、そして下旬には、会計データをまとめてくださっていた USB メモリーも学会事務局に届けられました。それらを元に、口座の変更手続きと諸般のバックアップを行い、5 月の連休明けには、ほぼ会計業務は平常に復すことができました。非常事態を受け、急遽会計を引き継いでくれることとなった緑川新幹事によると、島津さんが残された仕事に作業中のものは一つも無く、すべてきちんと整理されてすぐに作業を再開できるようになっていたとのことでした。日頃のお仕事ぶりが偲ばれ、惜念の思いを新たにいたしました。

ここに、島津幸子さんが学会に捧げられた貢献に深く感謝し、心よりご冥福をお祈りいたします。

現事務局は島津さんのご逝去という大きな打撃を経験しましたが、先にも述べましたとおり、新たに緑川会員が後任の会計幹事として事務局に入ってくださいました。緑川さんは、かつて平田会長のもとで会計幹事を務めた経験者で、安心して仕事をお任せすることができます。この新たな体制で、昨年から継続しての課題に取り組んでまいります。一つは、本ニューズレターにも掲載する通り、会員種別の見直し（ネット会員制度の廃止）であり、もう一つは、これまで実質的に本学会会員の貢献によって成立していた日本中国学会「学界展望」語学部門を、正式に本学会の事業としても軌道に乗せることです。すでに日本中国学会との間で取り決めを交わし、初年度の取り組みがまもなく開始します。残る任期期間、これらの課題にきちんと取り組み、過誤なく後に引き継いでいくことができるよう、我々一同力を尽くす所存です。

引き続き、会員の皆様のご支持とご支援を心よりお願いいたします。

支部例会実施報告　2017.1-2017.5

◆関東支部例会

◇2017 年 3 月 18 日（土）首都大学東京

・劉暁南（早稲田大学文学学術院訪問学者）：風俗与方言——以“閩蜀同風”為例

俗谚“闽蜀同风”只见于宋代文献，它标明悬隔千里的闽（福建）、蜀（四川）两地“风俗”相同，完全不符合“千里不同风”的普通认识。笔者根据《汉书地理志》对风俗的经典定义，确认古人所说的“风”包含“方音”的内容。联系宋人对闽、蜀两地方音的记述以及两地文人诗歌用韵等材料显示的两地方音特征多有相同的事实，笔者以为宋代方音的“闽蜀相近”就是宋人“闽蜀同风”俗谚的客观基础。宋之前没有这种说法，是因为当时闽地文明落后，其方音不为人所知。宋之后俗谚不再流行，是因为宋末元初的惨烈战乱中随着蜀中“原住民”大量消失，原方言也大部消亡，蜀音已变，不再与闽音相近的缘故。

・劉淼（首都大学東京・院）：明清白話小説における完了動詞“畢”、“罷”、“訖”について

本報告では、明清白話小説にみられる “畢”、“罷”、“訖” の用例を収集し、これらの通時的変化や共起する言葉の特徴を考察し、以下の三点を指摘する。①宋代までの資料と比べて補語としての用例が増え、地の文と会話文の境界を示すマーカーとしての用例が最も多い。②それぞれに共起しやすい語彙がある。例えば、述語動詞が“説”の場合“畢”が、“聴”の場合“罷”が補語になることが多い。また、“斬訖報來”のように固定化した表現が繰り返し見られる。③これらのうちどれがよく見られるかは作品によって異なる。例えば『水滸伝』は“罷”を、『金瓶梅詞話』は“畢”を多用している。

◆北陸支部例会

◇2017 年 3 月 18 日（土）富山大学

・王煒煒（新潟大学・院）：中国語の残存相における“了”構文と“着”構文の使い分けについて

中国語の“了”と“着”は助詞として動詞の後に付き、動作・行為のアスペクトを表す。自然言語（日常言語）おいて、「動詞+了」と「動詞+着」のいずれも頻用されていて、意味も相当似ている。今まで、“了”と“着”の使い分けはたくさん研究されて来ていて、“了”は動作・行為の終わりを表すが、“着”は動作・行為の持続を表すと論じられてきた。しかし、残存構文（残存の意味を表す構文）における“了”と“着”の使い分けについての研究はまだ十分な結論が出ていない。本研究発表は、“了”を“実現体”マーカーと捉えるという新たな視点から残存構文における“了”と“着”の意味的上の異同を検討し、更に使い分けを明らかにする。

・山田眞一（富山大学）：学習者から見た、専門科目と連動した中国語教材開発の試み ―芸術系学生を対象に―

「日本の大学生の中国語学習動機づけ―全国６言語アンケート調査に基づく量的分析―」（王松 古川裕　砂岡和子、『中国語教育第１４号』、2016 年）によると、芸術系学生は他の学部系統の学生に比べて、学習動機づけが強い。そうした学習者を対象に、学ぶ側から見た学びたい中国語教材をどのように開発するかについて考察する。中国語学習者へのアンケート調査、インタビューを主要な資料に、日本と中国の大学における芸術系専門科目の授業における談話資料、博物館での作品解説等における談話資料を補助的な資料として、コード分析の手法を用いて、芸術系学生にとって「専門性」とのつながりを持った中国語教材開発の考え方について報告する。

会議報告

■ 編集委員会

◆第 1 回編集委員会（『中国語学』264 号）

日時：2017 年 3 月 16 日（木）13 時～17 時

場所：大学共同利用施設 UNITY（ユニティ）２階・共同研究室

出席者：秋谷裕幸（委員長）、王亜新、橋本永貢子、石崎博志、竹越　孝、遠藤雅裕、丸尾　誠、雷　桂林（以上委員）

【議事】

1. 264号の依頼原稿について

・ 2016年度全国大会で講演を行った香港中文大学の馮勝利氏と、カリフォルニア大学ロサンゼルス校の陶紅印氏に論文寄稿の依頼をすることとした。

2. 『中国語学』264号の投稿論文について

・ 投稿総数23篇。審査の結果、19篇を受理した。19篇の分野別内訳は：歴史音韻1、方言語彙1、歴史文法4、現代語文法12、その他1。受理した19篇について査読者各３名を決定した。査読報告書の提出期限を5月8日（月）とし、5月27日（土）の第2回編集委員会において採否の決定を行なうこととした。

3. 2017年度学会奨励賞の候補者について

・ 263号に掲載された5篇の論文の執筆者の中から第一段階として2名を選出した。5月の第2回編集委員会において候補者を決定することとした。

◆第 2 回編集委員会（『中国語学』264 号）

日時：2017 年 5 月 27 日（土）10 時～15 時

場所：キャンパスプラザ京都第３演習室

出席者：秋谷裕幸（委員長）、王亜新、橋本永貢子、石崎博志、竹越　孝、遠藤雅裕、丸尾　誠（以上委員）：[欠席]雷　桂林（委員）

【議事】

1.『中国語学』264 号投稿論文の採否について

・ 受理した 19 篇の投稿論文について査読結果に基づいて審議した結果、2 編を採用、3 篇を要二次審査、14 篇を不採用とした。要二次審査の 2 篇については、6 月 30 日（金）必着で修正論文の提出を求め、編集委員会において二次審査を行い、掲載の可否を最終決定することとした。

2. 2017 年度学会奨励賞候補者について

・ 第 1 回編集委員会で選出した 2 名の執筆者について審議を行い、学会奨励賞候補者を決定し、理事会に報告することとした。

■ 大会運営委員会

通信による持ち回り審議（2017 年 5 月 10 日）

委員：宮本徹（委員長）、荒木典子、飯田真紀、石村広、鈴木慶夏、千葉謙悟、張盛開、三宅登之、吉川雅之、李佳樑

【報告事項】

1. 第 67 回大会について

・ 研究発表の査読・採否決定に係るスケジュールを確認した。

・ 委員会内に審査及びプログラム作成を扱う小グループを設けて、役割を分担した。

・ 委員長の下見に基づき、同大会の準備状況について報告した。

【審議事項】

1. 第 68 回大会（2018 年度）開催校について

・ 同大会の開催校について審議を行い、下記 1 校をその候補として理事会に対して報告することとした。

［学校名］神戸市外国語大学

［代　表］竹越孝会員

［日　程］2018 年 11 月 3 日（土）、4 日（日）

2. 2017 年度第 1 回理事会報告事項について

・ 委員長の報告案に基づき、同理事会の報告事項について審議決定した。

3. 予稿集の編集について

・ 全国大会の開催に関しては、いかに開催校の負担を軽減するかが近年の大きな課題となっている。中でも予稿集の編集作業は、発表応募者とのやり取りを含め、開催校に重い負担としてのしかかっている。本委員会ではこのような問題意識に基づき、昨年度はじめて委員会内に「編集サポート」を設置し、情況の漸進的な改善を図った。今後は、編集作業そのものを委員会に移管することを最終目標としつつ、具体的な検討を進めていく。なお今年度については、すでに開催準備が進行していることから、基本的には昨年度までのやり方を踏襲することとする。

■ 辞典編纂委員会

(1)『中国語学辞典初稿(第 1 冊)』について

編纂作業の便のために、岩波書店に入稿ずみの原稿を五十音順(欧文項目は巻末にアルファベット順)に排列した『中国語学辞典初稿(第 1 冊)』(A4 判 393 ページ) を 2017 年 3 月に 22 冊印刷製本し、委員および近年の会長経験者等に配布し、意見を求めた。

(2)岩波書店との協議について

編纂作業の遅延について、2017 年 5 月 12 日に平田委員長が岩波書店を訪問して現状を説明し、今後の見通しについて協議した結果、岩波書店側が 2018 年春に本格的な作業を再開できるよう、学会側で準備に取り組むこととなった。

■ 2017 年度第 1 回理事会

日時：2017 年 5 月 28 日（日）14 時～17 時

場所：同志社大学今出川キャンパス良心館 436 教室

出席者：木津祐子（会長）; 佐々木勲人（副会長）; 遠藤光暁、竹越孝（以上理事）; 秋谷裕幸（編集委員長）; 宮本徹（大会運営委員長）; 鈴木慎吾（ウェブリソース委員長）; 平田昌司（辞典編纂委員長）; 池田巧、中西裕樹、緑川英樹（以上幹事）

欠席者：加藤晴子、古川裕、三宅登之、山崎直樹（以上理事）

【報告事項】

1. 一般報告

1.1 役員・委員等の異動

・ 評議員交代

北海道支部：松江　崇（京都大）
→鈴木 慶夏（釧路公立大）

関東支部：伊藤 美重子（お茶の水大）
→伊藤 さとみ（お茶の水大）

九州支部：甲斐 勝二（福岡大）
→前田真砂美（立命館アジア太平洋大）

1.2 会員動向（2017 年 4 月 1 日現在）

・ 会員数：

		4/1 現在	増減
総会員数（賛助除く）		1166 名	－23
（内訳）	顧問	5 名	±0
	名誉会員	23 名	±0
	通常会員	704 名	－27
	ネット会員	344 名	＋4
	団体会員	7 名	±0
	海外会員	83 名	＋1
賛助会員		23 社	－1

※増減は昨年 10 月 1 日を基準とした数。
2016 年度の除籍者は 54 名。

1.3 事務局の所在地について

［本部所在地］

〒606-8501　京都市左京区吉田本町
京都大学人文科学研究所内
E-mail：jimukyok_clsj@chilin.jp

［事務支局］

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入
中西印刷株式会社　学会部内
担当：大西佑佳
Tel：075-415-3661　Fax：075-415-3662
E-mail：chilin@nacos.com

2. 支部例会関連

・ 支部例会世話人交代

北海道支部：松江　　崇（京都大）
→飯田 真紀（北海道大）
関東支部：町田　　茂（山梨大）
→荒木 典子（首都大）
関西支部：下地 早智子（神戸市外大）
→小嶋 美由紀（関西大）

・ 今年度の例会開催予定

北海道（飯田　真紀会員）：　1 回
関　東（荒木　典子会員）：　4 回
北　陸（山田　眞一会員）：　1 回
東　海（丸尾　　誠会員）：　1 回
関　西（小嶋美由紀会員）：　2 回
中　国（荒見　泰史会員）：　2 回
九　州（植田　　均会員）：　2 回

3. 大会運営委員会報告

宮本委員長より次の報告があった。

（1）委員の交代について（確認）

・ 退任：于康、更科慎一、前田真砂美の各委員（2016 年 11 月 13 日付）
・ 就任：荒木典子、吉川雅之、李佳樑の各会員（2016 年 11 月 14 日付）

（2）第 68 回大会開催校について

・ 神戸市外国語大学に内定。代表は竹越孝会員、開催校選出の大会運営委員は下地早智子会員。また日程は 2018 年 11 月 3 日（土）、4 日（日）の 2 日間の予定。

（3）第 67 回大会の準備状況について

１）各種応募状況

応募期間は以下のとおり。
ワークショップ：5 月 1 日～5 月 31 日
研究発表：5 月 30 日～6 月 13 日

２）招待講演

邵 敬敏 教授（暨南大学）
趙 春利 教授（暨南大学）

３）託児所について

設置の取扱いについて、現在開催校と協議中。

（4）予稿集の編集作業について

・ 編集作業を最終的には委員会に移管すべく現在検討を行っている。

4. 編集委員会報告

秋谷委員長より次の報告があった。

（1）『中国語学』264 号査読結果

・ 受理した投稿論文 23 編（不受理 4 編）について査読報告書に基づき採否の判定を行い、2 編を採用、3 編を要二次審査、14 編を不採用とした。

（2）『中国語学』264 号巻頭論文について

・ 昨年度の大会講演をご担当いただいた馮勝利氏（香港中文大学）および陶紅印氏（カリフォルニア大学ロサンゼルス校）に論文寄稿を依頼することとした。

（3）学会奨励賞候補者推薦について

・ 第 2 回編集委員会において候補者を選考した。

（4）『中国語学』の電子化について

・ Scopus へ登録するなどして国外における影響力の向上が見込まれるほか、電子化するとサイズ制限が無くなり、カラーが使える

等、編集上の利点について報告があった。
・ ただしテンプレートと執筆要領の改訂、査読担当者の外部委託などが必要となる。
・ 当面は紙版と電子版を平行して刊行し、徐々に電子版へ移行する。掲載論文の電子化は 265 号より着手したいという方針が示された。
・ あわせて「『中国語学』投稿に関する誓約書・著作権行使承諾書（案）」が提出され、内容と文面について審議した。

5. ウェブリソース委員会報告

鈴木委員長より次の報告があった。

(1) 中国語学関係論文検索ページの試運転の開始について説明があった。

(2) 学会誌電子化については、編集委と連携して検討を行っている。

(3) 学会ウェブサイトのアクセシビリティー情況について、今後委員会で検討する旨説明があった。

(4) 支部例会の発表キャンセル時の表示方法について理事より意見があり、すぐに対応して改訂した。

6. 辞典編纂委員会報告

平田委員長より、現在の進捗状況について報告があり、あわせて、岩波書店が保管している初校ゲラの送付を受け、理事会の席上で実物の全体を回覧した。

【審議事項】

1. 学会奨励賞の授賞について

・ 学会奨励賞の授賞者を編集委員会の原案通り承認した。

2. 次期全国大会について

・ 大会運営委員会から、第 68 回全国大会開催校について、内諾のあった神戸市外国語大学に依頼したい旨の提案があり、原案通り承認された。開催時期は 2018 年 11 月 3 日（土）、4 日（日）の 2 日間の予定。

3. 日本中国学会「学界展望」について

・ 会長から、日本中国学会から「学界展望」語学部門作成に関する正式な依頼状が届いた旨の紹介があり、あわせて佐々木副会長に所管のワーキンググループの代表を依頼したこと等、現状について報告があった。
・ ワーキンググループ代表の佐々木副会長から、作業グループの組織及び任期について紹介があった。
・ 以上をうけて審議の結果、2018 年以降の「学界展望」語学部門執筆を本学会が担当すること、及びそれに向けての体制について、承認された。
・ 日本中国学会出版委員会との関係について、再度双方の間で確認をすることとなった。後日、日本中国学会との話し合いをもち、本学会代表は暫定的に日本中国学会出版委員会に出席するが、これは移行期としての措置であり、今後は必要に応じてオブザーバーとして関わることを確認、持ち回り理事会にてその旨報告を行った。

4. 会費に関する特別規定の廃止について

・ 事務局から、昨年度の総会で方針が示された会員種別の見直し（ネット会員制度の廃止）について、説明があった。次回評議会で「会費納入に関する特別規定」の廃止を審議したい。なお会員種別の整理にあたり、移行のために 3 年の猶予期間を設ける。それにともない会員への郵送物は、会誌と会員名簿および会費請求書類のみとし、ニューズレターも電子版へ移行する方針が確認された。

5. 顧問・名誉会員の推挙について

・ 名誉会員の推挙依頼を、ニューズレターに掲載することとした。

6. 選挙管理委員について

・会長から、遠藤光暁、千葉謙悟、戸内俊介、池田巧の各会員を選挙管理委員に委嘱し、遠藤会員を委員長に任命したい旨の提案があり、承認された。

7. 内規の改正について

・選挙管理委員の委嘱に関する「(4) 選挙は役員改選時の全国大会当日に行い、評議会の承認を得て会長が委嘱した選挙管理委員会が管理運営するものとする。」という内規が現状に合わなくなっているので、同条文中の「評議会」を「理事会」に訂正すべきだという旨の指摘があり、次回の評議会に諮ることとした。

7. その他

(1) 会員資格の確認について

・事務局より、支部例会における一般発表者の会員資格の確認について、今後は念のため事務局でも確認を行ない、もし不備があれば世話人に対応を依頼する旨の報告があり、了承された。

(2) 会費未納者への会誌の送付について

・《中国語学》刊行時に当該年度の会費未納がある場合の会誌送付について意見を交換した。

(3)『中国語学』の査読体制について

・編集委員長より、『中国語学』投稿論文に対する査読体制が直面する問題について紹介があり、意見交換を行った。

全国大会および例会開催のお知らせ

第 67 回全国大会開催のお知らせ

すでに学会ウェブサイトでご案内しておりますとおり、今年度の大会は中央大学多摩キャンパスにて 11 月 11 日(土)～11 月 12 日(日)の日程で開催されます。ふるってご参加下さいますようお願い申し上げます。(なお、本年度の発表申し込み期間は、5 月 30 日（火）より 6 月 13 日（火）日本時間 24 時までですが、本ニューズレター発行時点では、すでに締切りとなりました。) 7 月中旬に採択者一覧が、7 月末に大会プログラムが学会ウェブサイト上にアップされます。　　（事務局）

今年度の例会実施予定

各支部の例会実施予定は次のようになっています。

北海道支部：1 回（9 月）
関東支部：4 回（6 月 10 日、9 月、12 月、2018 年 3 月）
東海支部：1 回（11 月）
北陸支部：1 回（2018 年 3 月）
関西支部：2 回（6 月 18 日、12 月）
中国支部：2 回（6 月 11 日、11 月）
九州支部：2 回（7 月 8 日、12 月）

発表者、参会者ともに歓迎します。ただし、開催時期および回数は変更になることもあ

りますのでご了承ください。開催予定、申込締め切り、連絡方法などにつきましては学会ウェブサイトでご確認ください。発表者の方には発表要旨（300 字以内）の事前提出をお願いしています。この要旨は本会ウェブサイト上の例会案内のページでご紹介していきます。また支部例会の活動記録として、学会ウェブサイト上でいつでも参照できるように保存されます。開催に関する詳細については、各支部例会世話人までお問い合わせ下さい。

（事務局）

選挙公示

2017 年 11 月 11 日（土）、第 67 回全国大会会場（中央大学多摩キャンパス）において、日本中国語学会「会長及び理事選出方法に関する内規（会則第 10 条関連）」に基づき理事の選挙を行ないます。選挙は専用の投票用紙によって 4 名連記で投票し、即日開票の上、得票数上位 8 名を候補者とし、そのうち最高得票者を会長、その他の 7 名を理事の当選者とするものです。被選挙人名簿は、10 月初旬までに学会ウェブサイトに掲示するとともに、当日、大会会場受付にて投票用紙とともに配布いたします。

選挙管理委員会委員

遠藤光暁（委員長）

千葉謙悟、戸内俊介、池田 巧

（事務局）

事務局からのお願いとお知らせ

■ 名誉会員の推挙について

名誉会員の推挙は、9 月 30 日までに推薦文を添えて事務局宛にお願いします。なお、名誉会員称号授与の条件は、年齢満 70 歳以上で継続して 20 年以上本会会員であった方のうち、本会の発展に功労のあった方となっており、評議会の審議を経た上で会員総会において決定されます。

■ 住所不明の会員

事務局より送付した郵便物が返送されてきた会員のお名前を掲げておきます。もし御自身のお名前を見つけましたら、速やかに e-naf から住所変更の手続きを行なってください。またお知り合いの方のお名前がありましたら、事務局までご連絡をお願いします。

荒屋 勸、上野 倫代、大塚 秀明、韓 涛、許 羅莎、玄 宜青、呉 沛珊、小金澤 豊、小鹿 洋子、朱 新建、髙岸 晃夫、張 金平、張 芃蕾、陳 昭宜、鄭 磊、西原 一幸、長谷川 良一、潘 藝梅、三野 園子、湯山 トミ子、李 孟娟、劉 乃華、張 群、呉 睿純、李 嵩、東 会娟、崔 文燕、申 荷麗、陳 倩、張 睿、申 祐先、陳 小珍、藤田 由香利、王 正、劉 春芳、朱 美英、董 菁、谷 恵中、鄭 文琪、羅 希、許 挺傑、樊 涛、金 香、劉 宇飛、張 婷婷、范 碧琳、王 玉、紀 宝紅、許 芸涵、王 棋、崔 春子、李 婷、劉 玲、李 勁栄、沈 庶英、梅 佳、王 煒煒、于 姝君、薛 晨、江 氷燕、陳 相偉

■ 2017 年度会費納入のお願い

先にお送りした請求のご案内の通り、本年度会費（一般会員6,000円、ネット会員5,000円）を最寄りの郵便局からお振込下さい。

郵便振替　加入者名：日本中国語学会

口座番号：00980-6-282216

『中国語学』バックナンバーなどに記載されている旧口座には振り込まないようお願いします。なお、これまでの会費が未納の方は請求のご案内に記載していますので、一括してご入金下さい。もし記載請求金額が15,000円以上となっておりましたら、今年度ご入金いただけませんと、会則《会費納入に関る内規》により除籍となりますのでご注意下さい。

■ 退会について

退会は会費納付が前提となっています。退会ご希望の方は必ず会費納付後の年度内にお申し出下さい。

■ 予稿集の販売

過去の大会予稿集は好文出版にてお求めになれます。第61回までは1500円、それ以降は2000円となっています。詳しくは学会ウェブサイトをご覧下さい。在庫につきましては好文出版（order@kohbun.co.jp）に直接お問い合わせ下さい。

■ 事務局の連絡先　2018 年 3 月まで

事務局への郵便物は、

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

京都大学人文科学研究所内

日本中国語学会事務局宛

にお願いします。また各種のお問い合わせは、学会ウェブサイト（http://www.chilin.jp/）内の「お問い合わせ」ページをご利用ください。

日本中国語学会々報　2017 年春季
（年二回発行）
発行者：日本中国語学会事務局
〒606-8501
京都市左京区吉田本町
京都大学人文科学研究所内
E-mail: jimukyok_clsj@chilin.jp
URL: http://www.chilin.jp/
発行日：2017 年 6 月 25 日